



杉の子

No. 14

文責：校長

十和田市東三番町36-1
TEL 23-7178
特別支援教育センター
TEL 23-9553

令和2年度を振り返って

校長 江渡 準 悦

今年度は、学校現場はもとより、社会全体が当たり前に行えていたことが当たり前でなくなった、今まで経験したことがない状況下でのスタートとなりました。

そして、毎日の授業や様々な行事などを、普通に行えていた頃には見えなかった課題が浮き彫りとなり、ありとあらゆる場面でこれまでの手法の変革を迫られました。

このような中、私たち三本木小学校教職員は、以下のことを心に誓い教育活動を進めて参りました。これまで度々紹介し、第3回学習参観日でもお伝えしたことです。

-
- いつもと違う状況の中にあっても、子どもたちには、**いつもと変わらない**体験や喜びを味わわせること
 - 「**コロナだったからこそ**、新たに得られるものがあった。」と言える、そんな日を迎えられるよう全力を尽くそう
 - コロナの「こ」は、→**こ**んなこともできるの「こ」
コロナの「ろ」は、→**ろ**いろいできるの「ろ」
コロナの「な」は、→**な**んだってできるの「な」
-

この誓いを十分に果たせたかどうかの評価はできませんが、あれもできない、これもできないと悲観的になるのではなく、

「今できることをやりきる。そうすれば必ず道は開ける。」

このことを子供たちが自分なりに実感できていれば、これが、今年度の教育活動の大きな成果であると、私たちは考えています。

4月から新しい年度が始まりますが、感染症の現在の状況は、決して安心できる段階にはありません。コロナ感染症への対応は2年目に入ります。

コロナ元年は、だれもが無我夢中で、「先ずは今を乗り切ることに精一杯でした。しかし、4月からのコロナ2年目も同じようなやり方では、子供たちの気持ちもたないと、私たちは判断しています。よって、来年度も、今年度と同様に様々な工夫を凝らしつつ、制約がある中にも、「コロナだったからこそ、また新しい経験がいっぱいできた！」と、子供たちが前を向いて学校生活を送れるよう、本校職員の力を結集させ、より一層の創意工夫を図っていきたいと考えています。

この1年間を振り返れば、本当にたくさんの方々から助けていただいた。と実感しております。

一番助けられたと思うのは、保護者の方々からのご理解です。昨年3月から4月

までの1か月、そして、4月中旬から5月中旬までの1か月の合わせて2か月間、ご家庭で子供たちの学習面や生活面、そして気持ちをしっかりとサポートして下さったおかげで、子供たちは、度重なる臨時休業にも関わらず、とても落ち着いた態度で学校再開を迎えることができました。また、本校の感染症への対応にも多大なるご理解を頂きました。中には本校の対応が厳しいのではというご指摘も少々頂きましたが、後でこうすれば良かったと後悔しないために、「見逃し三振より、空振り三振を！」を合言葉に、その時々で最善と思える対策を取って参りました。

来年度も、子供たちの健康と安全を確保し、子供たちも保護者の皆様も安心して通うことができる学校づくりに、職員一丸となって努めて参りたいと思います。

また、本校の安全な学校づくりのために、地域の方々にもたくさん助けいただきました。中でも、三小学区青少年健全育成協議会の皆様には、定期的な安全パトロール活動やあいさつ運動、そして、不審者による声掛け事案発生時の緊急パトロール出動などと、地域全体で子供たちを見守っていただきました。

4月からの令和3年度も、三本木小学校の子供たちのために、ご家庭・地域・そして学校が手を携えて、共によりよい三本木小学校を創っていきましょう。

令和3年度も、どうぞよろしくお願いいたします。

まだまだ続くよ！ ありがとうのウエーブ！



先月の学校だよりで、「ありがとう」のウエーブが、校内で次から次へとつながっているとご紹介しましたが、3月中旬になってもつながり続けています。上記の写真は、6年生からの「♪歌の贈り物」に対して、「6年生の素晴らしいこと」を5年生が一人一枚ずつ画用紙に書いて中央階段に掲示しているものです。また、他の学年では、6年生の歌に対してお礼の手紙を届けるなど、当初の計画にはなかったことが、次から次へと実践され続けています。

在校生からは、「6年生のきれいな声は、たくさんの人が笑顔になれる素敵な声でした。」「2つの曲には、6年生の団結力と思いが込められていると感じました。」「私も6年生みたいな歌が歌えるようになりたい。」などといった感想がたくさんみられました。

この“ありがとう”の気持ちは、来年度もつながっていく。そんな予感がしています。